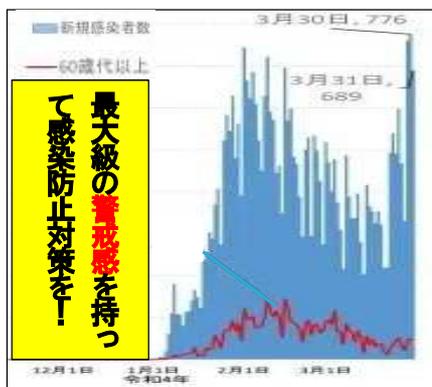


鹿児島県感染症情報

2022年 第13週報 (3月28日~4月3日)

発行：鹿児島県環境保健センター（内容に関するお問い合わせ：健康増進課感染症保健係）

※ 感染症のホームページアドレス <http://www.pref.kagoshima.jp/kenko-fukushi/kenko-iryu/kansen/index.html>



県内の新型コロナウイルス感染症は、4月3日時点での届出総数は46189例です。直近一週間の新規感染者数が44都道府県で前週と比べ増加しています。本県の新規感染者数も4月2日(740人)、4月3日(753人)となっています。県内には「爆発的感染拡大警報」が継続中です。感染防止に努めてください。

これからまだ春の移動シーズンで、歓迎会などのイベントが続くと思います。市中感染が拡がり、感染経路不明の感染者の割合が5割程度と高い状態となっています。いつ、どこで、誰から感染するか分からない、非常に危険な状況となっております。家庭内感染も依然として多くなっております。

ご自身とご家族の身を守るため、最大級の警戒感を持って、感染防止対策

本県における新規感染者数・60歳以上の占める割合 をお願いいたします。

下図には本県及び全国のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(平成26年から令和3年)の届出数を示してあります。令和元年以降、本県は減少傾向、全国では横ばいの状況ですが、今後の動向に注意を要する疾患です。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)はカルバペネム系抗菌薬(メロペネム、イミペネム等)を含む多くの抗菌薬に対し耐性を示す細菌です。それにより引き起こされる感染症は、肺炎等の呼吸器感染症、尿路感染症、手術部位や外傷部位の感染症、カテーテル関連血流感染症、敗血症、その他多様な感染症を起こします。CREは様々な機序で薬剤耐性になりますが、カルバペネマーゼを産生する腸内細菌科細菌(CPE)の場合、プラスミド上にあるカルバペネマーゼ遺伝子(IMP型)が菌種を超えて伝播する可能性があり、早期発見と拡散防止が公衆衛生上重要です。国内ではクレブシエラ属菌の肺炎球菌病原体サーベイランスにおいて、CPE検体中の約4割からIMP型が確認されています。



本県における令和3年のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の届出状況をみると、前年(24例)より3例少ない21例(男性13例、女性8例)であり、月別では6月(4例)、4月、9月、10月(それぞれ3例)、2月、5月、12月(それぞれ2例)の順に多い状況でした。年齢別では、70歳以上(15例)、60歳代(6例)の順に多く、届出受理保健所別では、鹿児島市(15例)、鹿屋(5例)、加世田(1例)でした。

第13週の定点報告疾患の総報告数をみると、第12週、第13週と2週連続で流行発生警報域及び流行発生注意報域の疾患はありませんでした。第10週(580人)、第11週(559人)と比べて第12週(356人)、第13週(361人)と減少傾向が続いています。なお、全数報告疾患では梅毒が第9週以降連続で届出がある状況です。

☆一~五類感染症(全数報告疾患)の発生状況

一類感染症	発生報告なし
二類感染症	結核2例(無症状病原体保有者2例)
三・四類感染症	発生報告なし
五類感染症	梅毒1例、侵襲性肺炎球菌感染症1例 追加水痘(入院例)1例(第12週)
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症4792例

☆定点報告疾患の発生状況

- ・今週の定点医療機関は、インフルエンザ定点91、小児科定点53です。(通常より各1減)
- ・第13週の定点把握対象疾患の総報告数は361人で、前週より5人多い報告数でした(4頁参照)。
- ・流行発生警報の基準値(開始基準値及び終息基準値)以上の保健所 該当なし
- ・流行発生注意報の基準値以上の保健所 該当なし

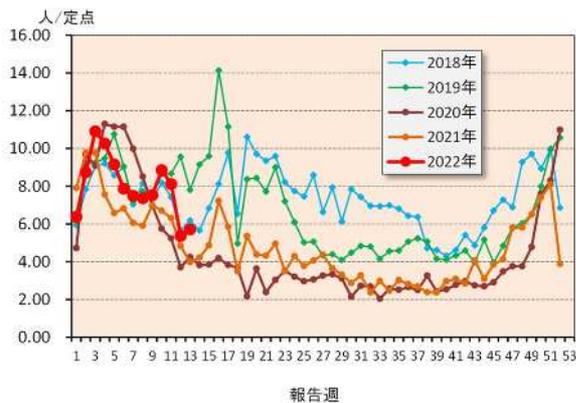
☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患の発生状況）

(1) 感染性胃腸炎

第13週の感染性胃腸炎の報告数は303人で、前週より24人多く、定点当たりの報告数は5.72であった。

年齢別では、1歳（54人）、2歳（38人）、3歳（34人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり報告数は、鹿児島市保健所（11.92）、鹿屋保健所（11.20）、指宿保健所（7.00）の順に多い。

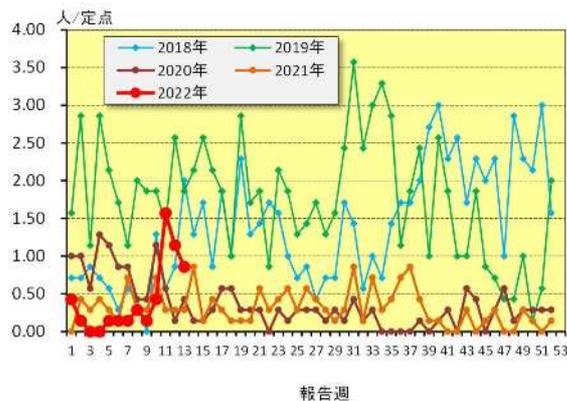


(2) 流行性角結膜炎

第13週の流行性角結膜炎の報告数は6人で、前週より2人少なく、定点当たりの報告数は0.86であった。

年齢別では、20～29歳、40～49歳（それぞれ2人）、15～19歳、70歳以上（それぞれ1人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり報告数は、川薩保健所（2.00）、鹿児島市保健所（1.00）の順に多い。



(3) 咽頭結膜熱

第13週の咽頭結膜熱の報告数は13人で、前週と同数で、定点当たりの報告数は0.25であった。

年齢別では、5歳（4人）、1歳、2歳（それぞれ3人）、20歳以上（2人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり報告数は、出水保健所（1.00）、川薩保健所（0.75）、始良保健所（0.29）の順に多い。



【新型コロナウイルス感染症関連情報】

感染拡大防止へのご協力をお願いいたします
ワクチン接種後も引き続き感染対策にご協力ください。

感染対策へのご協力、ありがとうございます。
オミクロン株は感染拡大の速度が非常に速いのが特徴ですが、オミクロン株に対しても基本的な感染対策が有効です。ワクチン未接種の方は接種について検討をお願いします。

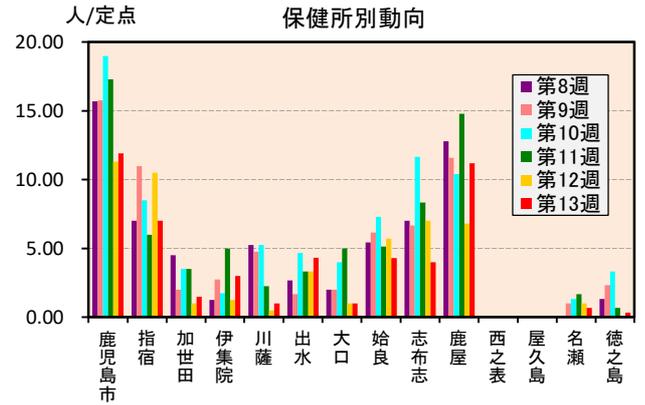
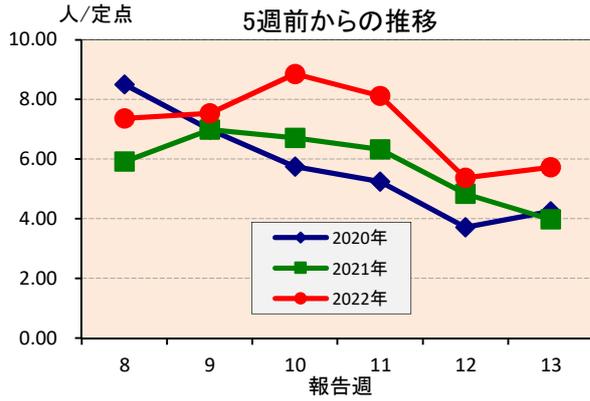
ブレークスルー感染によって誰かに感染させてしまうケースも発生しています。
高齢者や基礎疾患のある方が感染すれば重症化するリスクも高まります。ワクチン接種後も「マスクの着用」や「手洗い」、「3密（密接・密集・密閉）回避」、「換気」など基本的な感染対策を徹底しましょう。

新年度を迎え、移動が活発になる時期です。外出する際は、今一度、ご自身の体調を確認いただき、**発熱や倦怠感があつた場合は、軽度であっても外出や移動を控え、自治体等の方針に従って受診や検査をお願いします。**1人ひとりの行動が、大切な人と私たちの日常を守ることにつながります。

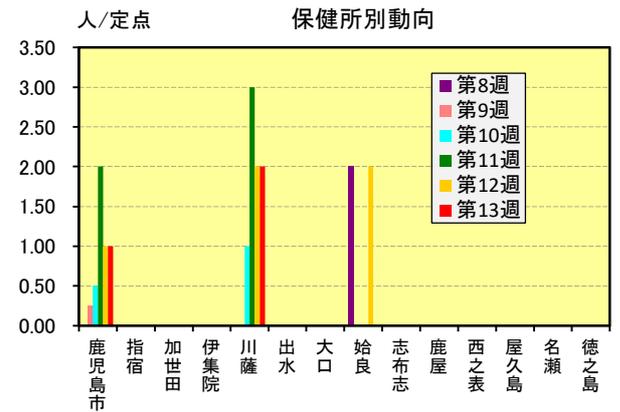
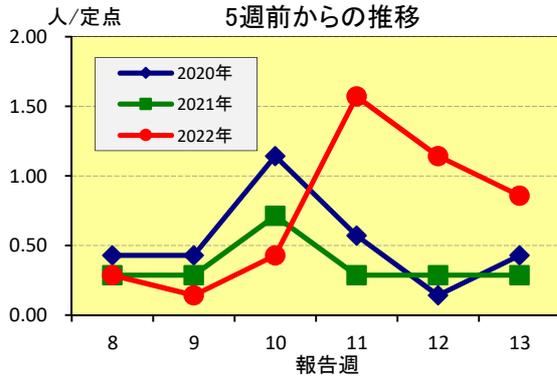
 厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

上位3疾患の5週間前からの定点あたり報告数及び保健所別動向

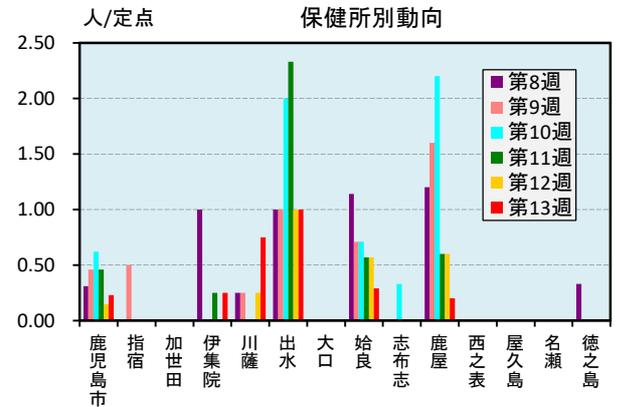
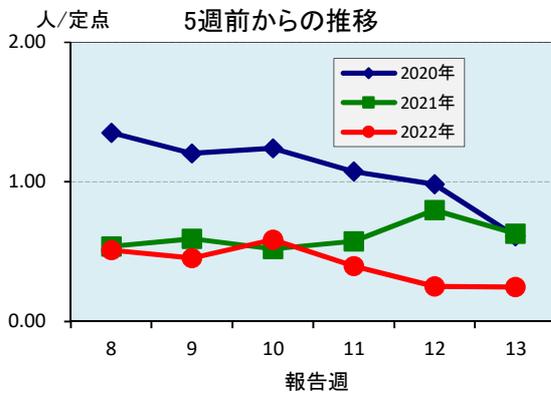
(1) 感染性胃腸炎



(2) 流行性角結膜炎

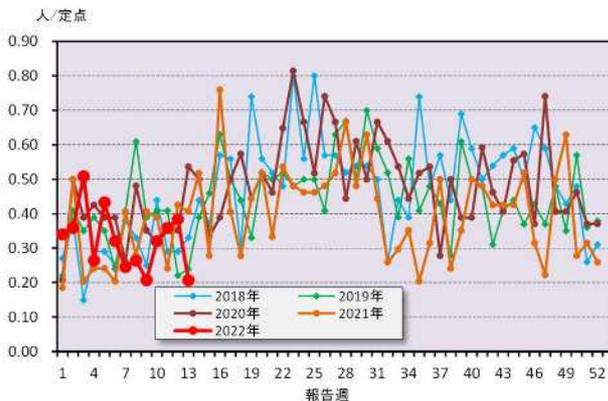


(3) 咽頭結膜熱



☆注目される感染症の発生状況

★ 突発性発しん（鹿児島県）



★ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（鹿児島県）



☆定点報告疾患の発生状況

2022年	(報告週)	第13週		
定点種別	定点報告疾患	報告数	定点当り	累積報告数 (2022年)
インフルエンザ定点 (内科・小児科定点)	インフルエンザ	-	-	11
小児科定点	咽頭結膜熱	13	0.25	368
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10	0.19	316
	○ 感染性胃腸炎	303	5.72	5,492
	○ 水痘	4	0.08	67
	手足口病	9	0.17	675
	伝染性紅斑	-	-	8
	突発性発しん	11	0.21	223
	ヘルパンギーナ	2	0.04	63
	○ 流行性耳下腺炎	2	0.04	25
	RSウイルス感染症	1	0.02	667
	眼科定点	急性出血性結膜炎	-	-
流行性角結膜炎		6	0.86	38
基幹定点	細菌性髄膜炎(真菌性を含む)	-	-	1
	無菌性髄膜炎	-	-	3
	マイコプラズマ肺炎	-	-	-
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)	-	-	-
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	0.00	2
報告数合計		361	0	7,959

○印は前週比増

☆5週間前からの疾患別報告数・定点当たり報告数

		5週前 (2022年8週)	4週前 (2022年9週)	3週前 (2022年10週)	2週前 (2022年11週)	1週前 (2022年12週)	今週 (2022年13週)
インフルエンザ	報告数	1	-	-	-	-	-
	定点当り	0.01	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	報告数	20	21	22	22	3	1
	定点当り	0.38	0.40	0.42	0.42	0.06	0.02
咽頭結膜熱	報告数	27	24	31	21	13	13
	定点当り	0.51	0.45	0.58	0.40	0.25	0.25
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	12	16	12	14	13	10
	定点当り	0.23	0.30	0.23	0.26	0.25	0.19
感染性胃腸炎	報告数	390	399	469	430	279	303
	定点当り	7.36	7.53	8.85	8.11	5.37	5.72
水痘	報告数	2	6	-	11	3	4
	定点当り	0.04	0.11	-	0.21	0.06	0.08
手足口病	報告数	27	8	23	26	12	9
	定点当り	0.51	0.15	0.43	0.49	0.23	0.17
伝染性紅斑	報告数	2	-	-	-	1	-
	定点当り	0.04	-	-	-	0.02	-
突発性発しん	報告数	14	11	17	19	20	11
	定点当り	0.26	0.21	0.32	0.36	0.38	0.21
ヘルパンギーナ	報告数	1	-	2	1	3	2
	定点当り	0.02	-	0.04	0.02	0.06	0.04
流行性耳下腺炎	報告数	-	1	1	3	1	2
	定点当り	-	0.02	0.02	0.06	0.02	0.04
急性出血性結膜炎	報告数	-	-	-	-	-	-
	定点当り	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	報告数	2	1	3	11	8	6
	定点当り	0.29	0.14	0.43	1.57	1.14	0.86
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)	報告数	-	-	-	-	-	-
	定点当り	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	報告数	-	-	-	1	-	-
	定点当り	-	-	-	0.08	-	-
マイコプラズマ肺炎	報告数	-	-	-	-	-	-
	定点当り	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(オウム病は除く)	報告数	-	-	-	-	-	-
	定点当り	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数	-	-	-	-	-	-
	定点当り	-	-	-	-	-	-

